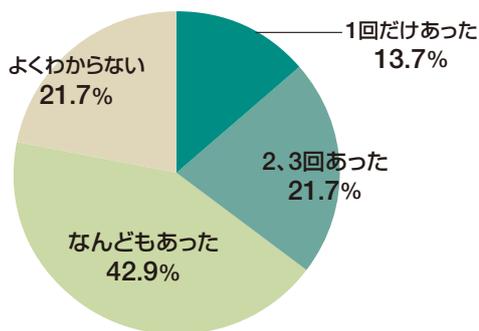


# 実際経験による虐待・不適切対応の実態

実際に受けた話について

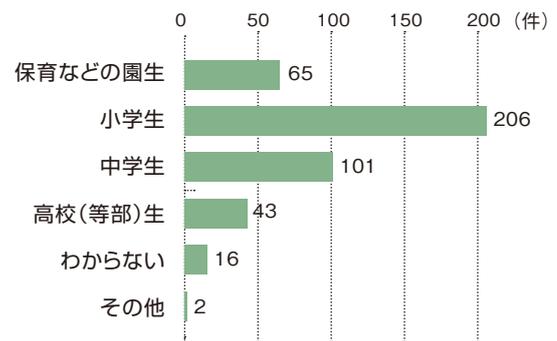
就学前、学校(小・中・高)、登下校中

## Q1 それは1回だけですか？ 何度もありましたか？



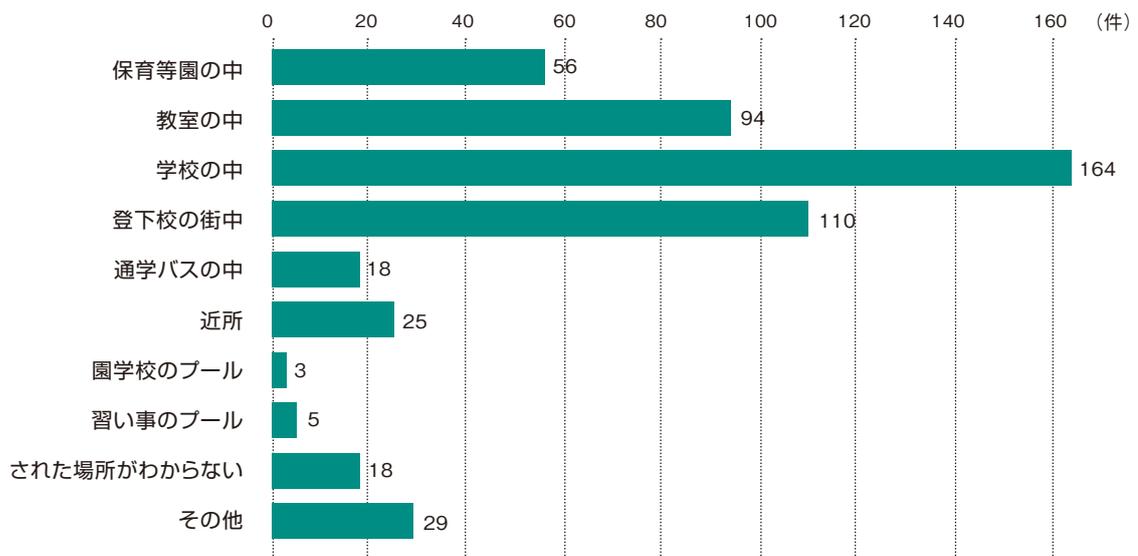
「何度もあった」42.9%、「2、3回あった」21.7%と、半数以上が複数回の虐待を経験している。

## Q2 いつ頃のことですか？



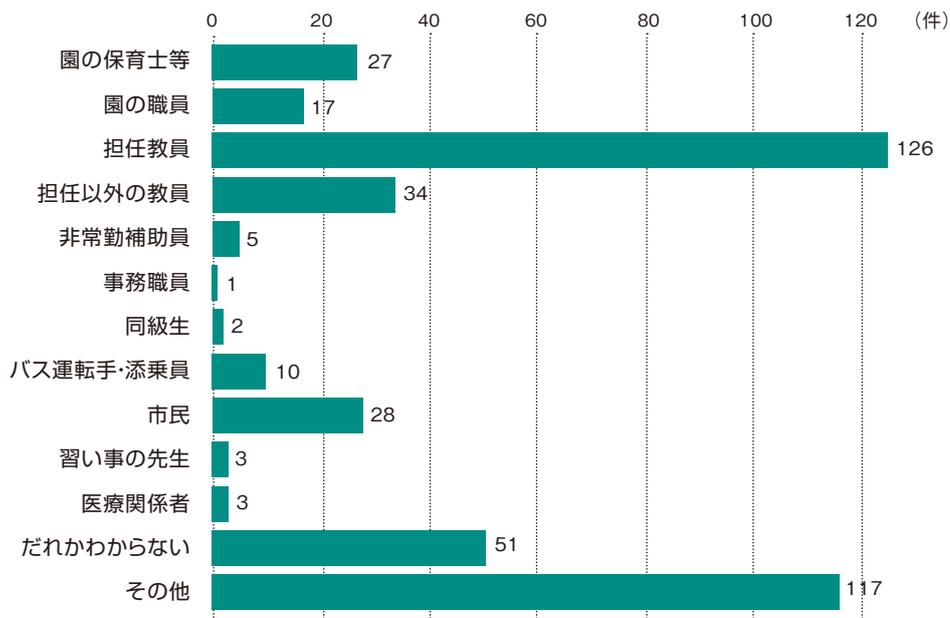
「小学生」が最も多く、件数ベースで約6割程度となる。次いで「中学生」が小学生の約半数となっている。

## Q3 場所はどこですか？



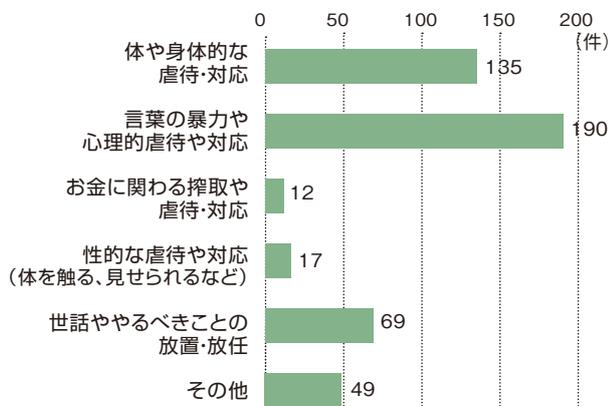
「学校の中」が164件と約半数程度、次いで「登下校の街中」110件、「教室の中」94件となっている。

## Q4 誰にされましたか？



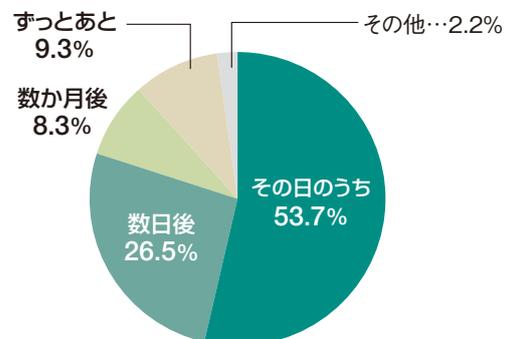
「担任教師」が多く、他が次いで多くなっている。他で多かったのは「同級生」であった。  
(回答にもあったが、同級生ないしはその近辺世代の子どもと思われる)

## Q5 どんなことをされましたか？



「言葉の暴力や心理的虐待・対応」が190件と最も多く、「体や身体的な虐待・対応」も約4割程度となっている。

## Q6 いつ頃気がつきましたか？

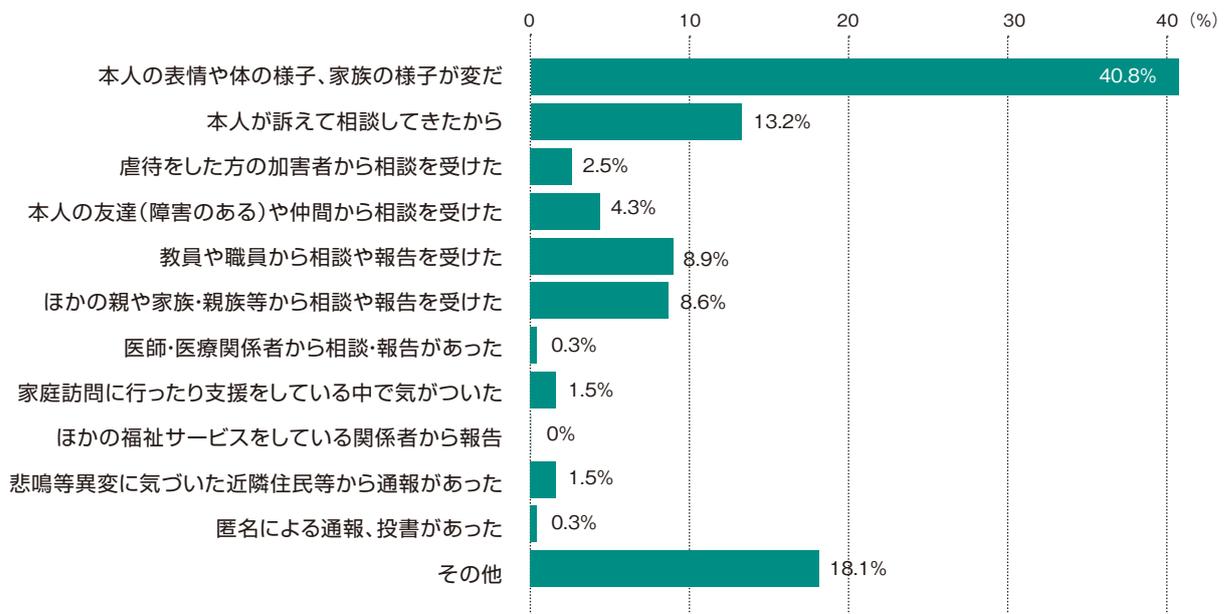


「その日のうち」に気付いたのが53.7%と半数以上を占め、「数日後」(26.5%)をお合わせると約8割は早い段階で気付いていることが分かる。

# 実際経験による虐待・不適切対応の実態

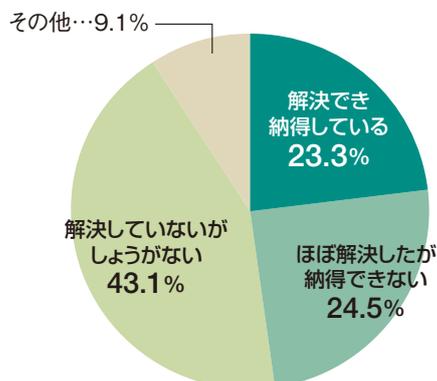
実際に受けた話について

## Q7 それに気がついたのは、なにがきっかけでしたか。



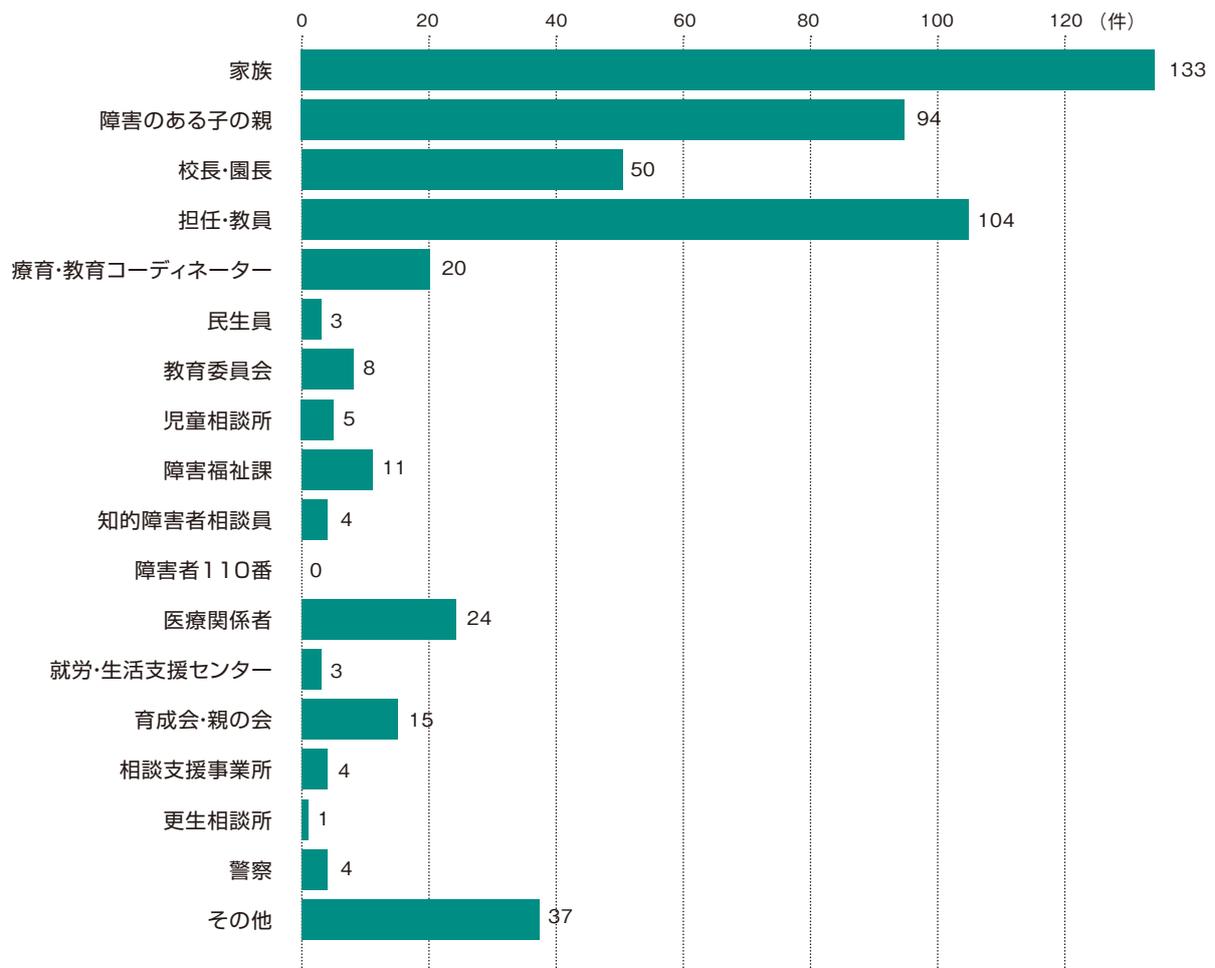
「本人の表情や体の様子、家族の様子が変だ」40.8%と、気付かれたケースが多い。「本人が訴えて相談してきたから」は13.2%となっている。その他、周囲(加害者、友達、教員・職員、他家族)からの報告で気付いたのは概ね25%程度となっている。

## Q8 その虐待や不適切な対応は解決しましたか？ それに対して納得していますか？



「解決していないがしょうがない」が43.1%と未解決のままである。「ほぼ解決したが納得できない」24.5%と、解決していない方とあわせて約7割の方が不満を残したままとなっている。

## Q9 誰が相談にのり、頼りになりましたか？

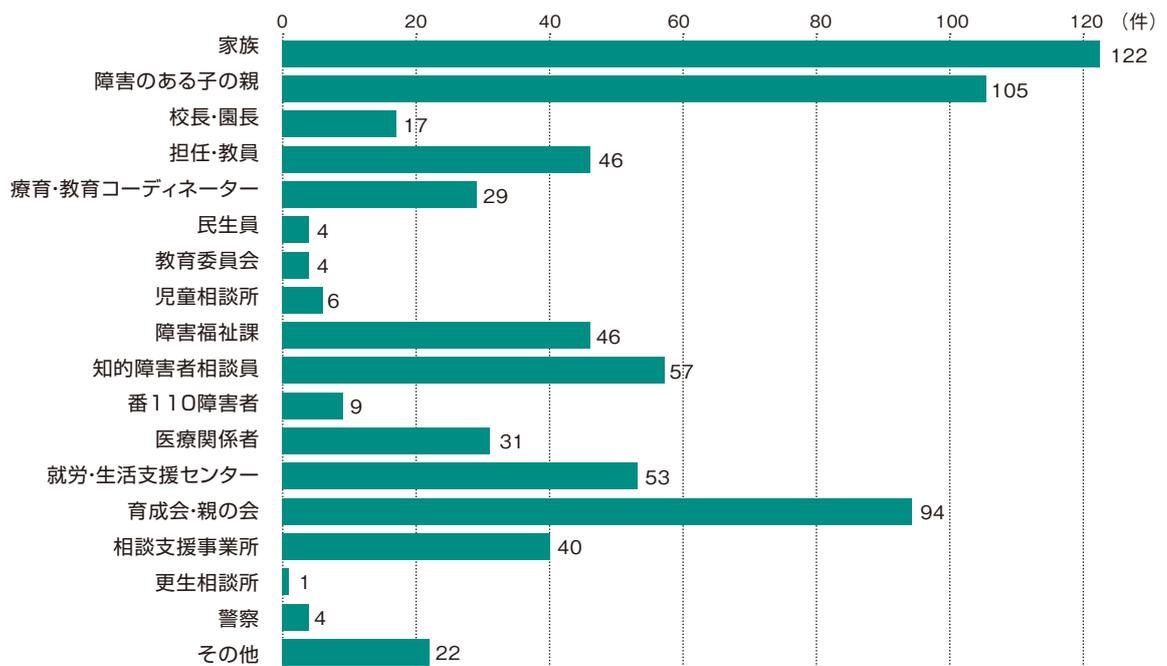


「家族」が133件と最も多く、次いで「担任・教員」104件、「障害のある子の親」94件と身近な人が頼りになったケースがほとんどである。

# 実際経験による虐待・不適切対応の実態

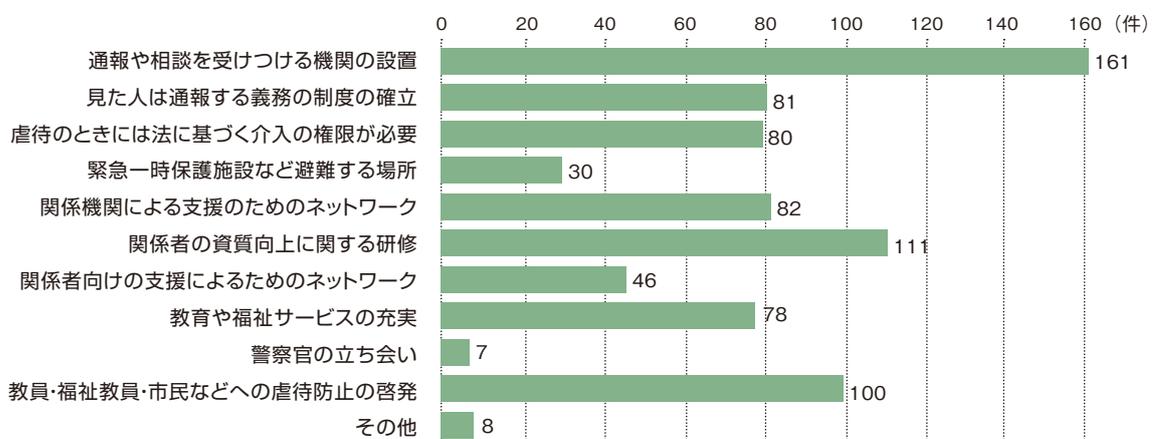
実際に受けた話について

## Q10 今後、相談したい、頼りにしたいと思うのは誰ですか？



「家族」122件、「障害のある子の親」105件、「育成会・親の会」94件、となっており、育成会・親の会に対する期待度は非常に高いと言える。

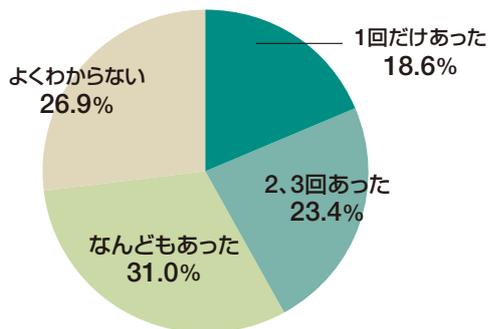
## Q11 今後、どのような体制・制度が必要だと思いますか？



「通報や相談を受け付ける期間の設置」が161件と最も多く、「関係者の資質向上に関する研修」111件、「教員・福祉教員・市民などへの虐待防止の啓発」100件と、未然に防ぐ、ないしは発生時に適切に処理するための予防線に対する期待が高い。

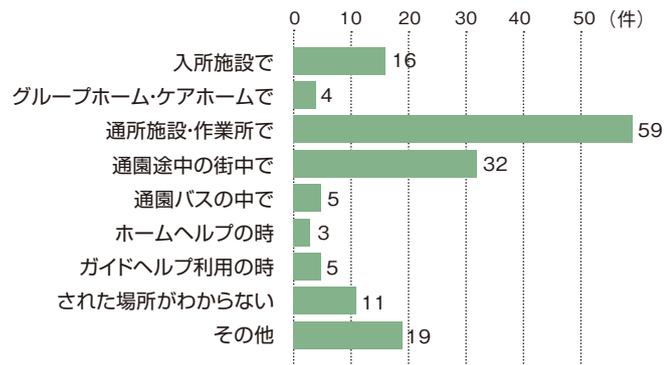
## 施設や福祉サービスの利用の時・通園途中

### Q1 それは1回だけですか？ 何度もありましたか？



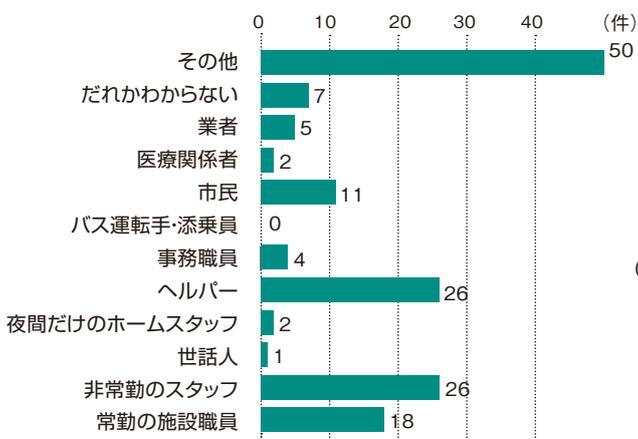
「何度もあった」431.0%、「2、3回あった」23.4%と、半数以上が複数回の虐待を経験している。

### Q2 場所はどこですか？



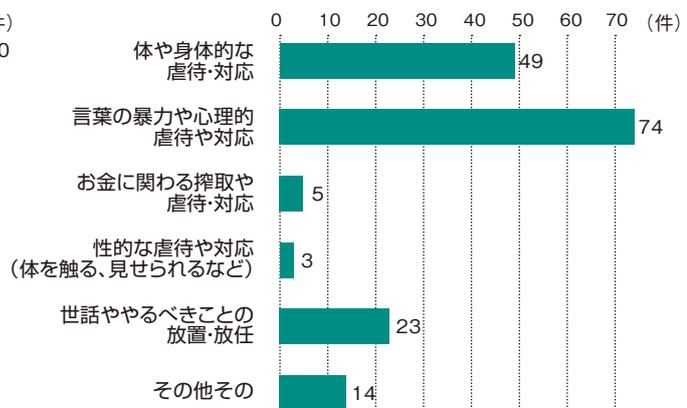
「通所施設・作業所で」が59件と最も多く、「通園途中の街中で」32件と続く。

### Q3 誰にされましたか？



「常勤の施設職員」が50件と最も多く、次いで「市民」「誰かわからない」が26件となっている。

### Q4 どんなことをされましたか？

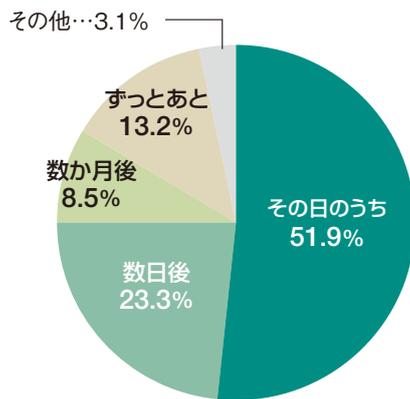


「言葉の暴力や心理的虐待・対応」が74件と最も多く、「体や身体的な虐待・対応」も49件となっている。

# 実際経験による虐待・不適切対応の実態

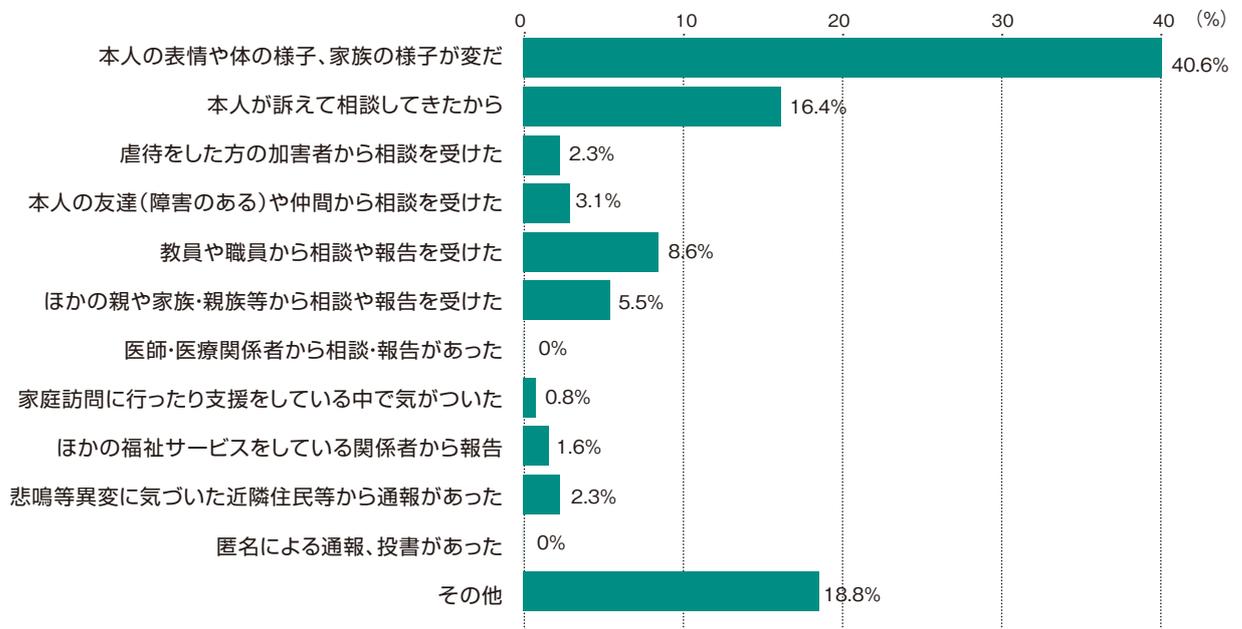
実際に受けた話について

## Q5 いつ頃気がつきましたか？



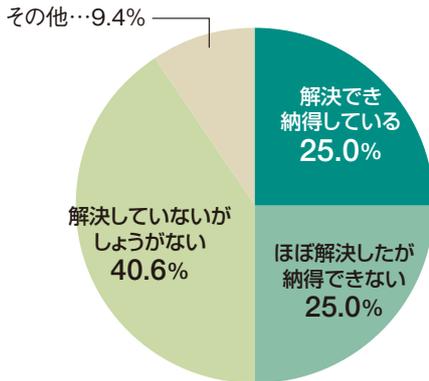
「その日のうち」に気付いたのが51.9%と半数以上を占め、「数日後」(23.3%)を合わせると約8割弱は早い段階で気付いていることが分かる。

## Q6 それに気がついたのは、なにがきっかけでしたか。



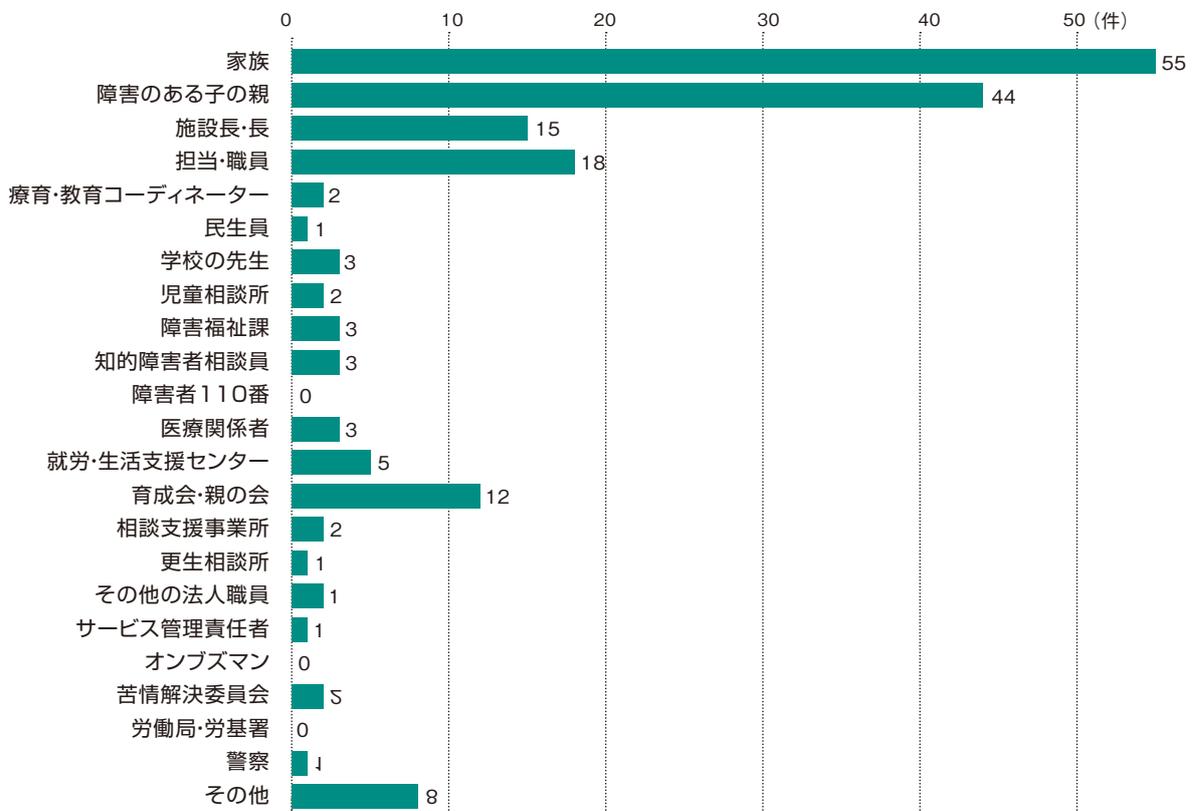
「本人の表情や体の様子、家族の様子が変わる」40.6%と、親族内で気付かれたケースが多い。「本人が訴えて相談してきたから」は16.4%となっている。その他、周囲(加害者、友達、教員・職員、他家族)からの報告で気付いたのは約2割程度となっている。

## Q7 その虐待や不適切な対応は解決しましたか？ それに対して納得していますか？



「解決していないがしょうがない」が40.6%と未解決のままである。「ほぼ解決したが納得できない」25.0%と、あわせて約7割の方が不満を残したままとなっている。

## Q8 誰が相談にのり、頼りになりましたか？

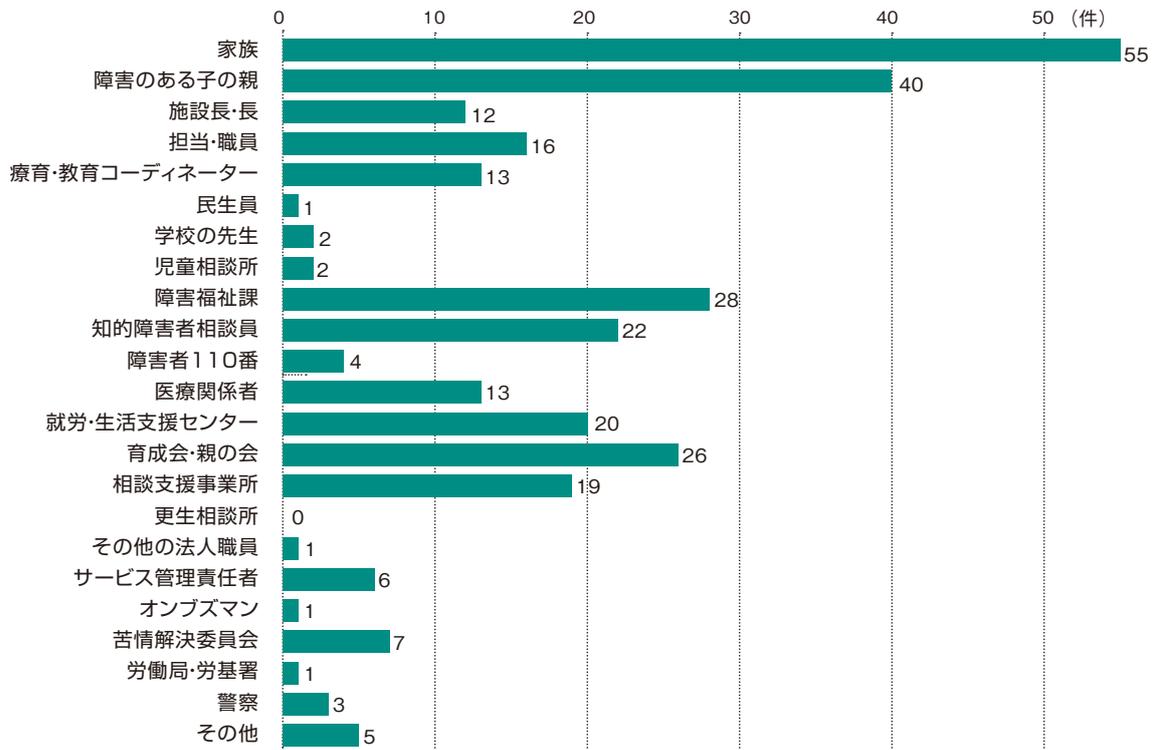


「家族」が55件と最も多く、次いで「障害のある子の親」44件と身近な人が頼りになったケースがほとんどである。

# 実際経験による虐待・不適切対応の実態

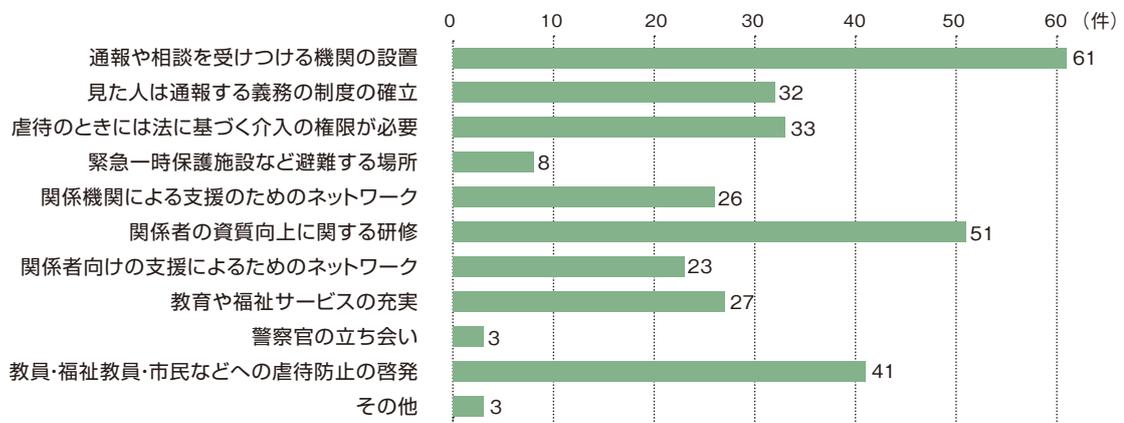
実際に受けた話について

## Q9 今後、相談したい、頼りにしたいと思うのは誰ですか？



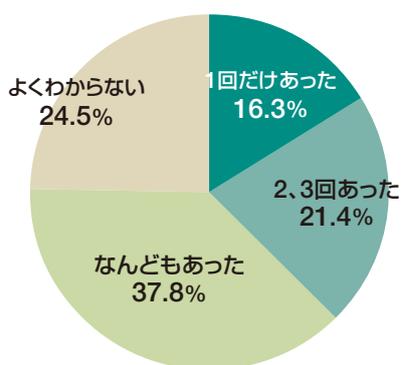
「家族」55件、「障害のある子の親」40件となっており、次いで「障害福祉課」28件「育成会・親の会」26件となっている。

## Q10 今後、どのような体制・制度が必要だと思えますか？



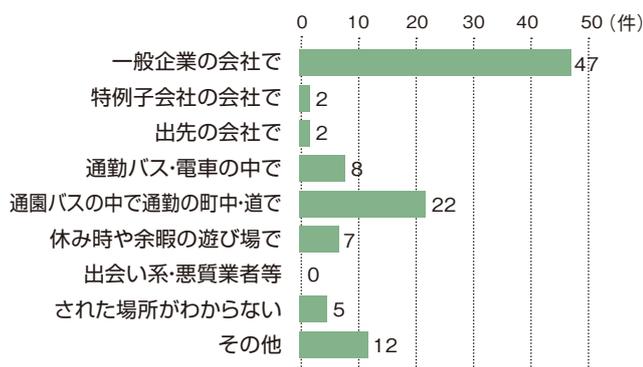
「通報や相談を受け付ける期間の設置」が61件と最も多く、「関係者の資質向上に関する研修」51件、「教員・福祉教員・市民などへの虐待防止の啓発」41件と、未然に防ぐ、ないしは発生時に適切に処理するための予防線に対する期待が高い。

### Q1 それは1回だけですか？ 何度もありましたか？



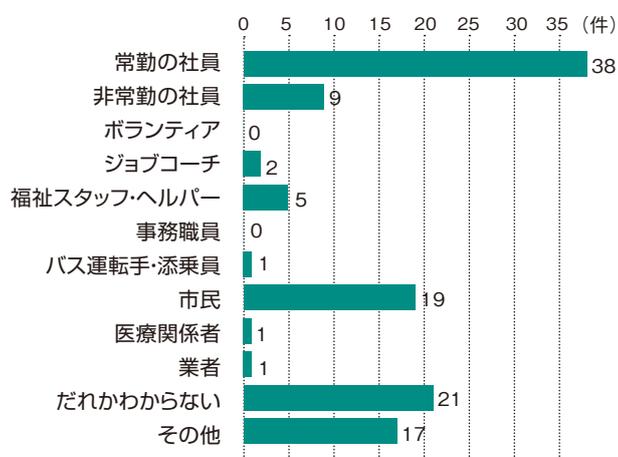
「何どもあった」37.8%、「2、3回あった」21.4%と、半数以上が複数回の虐待を経験している。

### Q2 場所はどこですか？



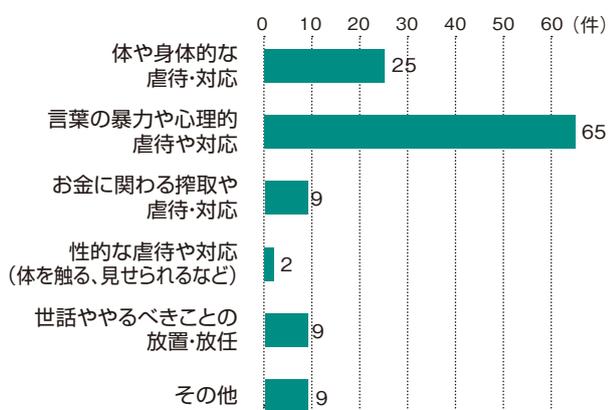
「一般企業の会社で」が47件と最も多く、「通勤の街中・道で」22件と続く。

### Q3 誰にされましたか？



「常勤の社員」が38件と最も多く、次いで「誰かわからない」が21件、「市民」19件となっている。

### Q4 どんなことをされましたか？

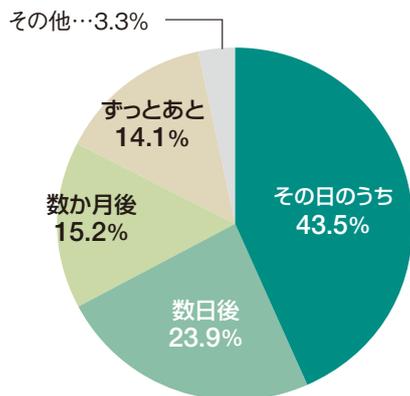


「言葉の暴力や心理的虐待・対応」が65件と最も多く、「体や身体的な虐待・対応」も25件となっている。

# 実際経験による虐待・不適切対応の実態

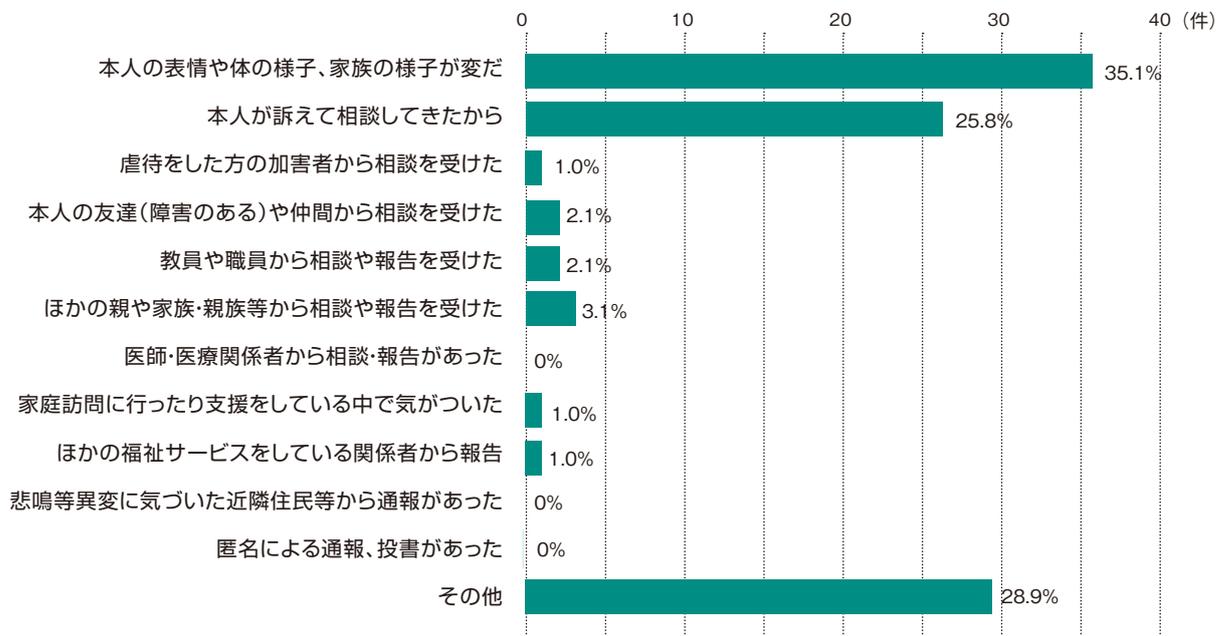
実際に受けた話について

## Q5 いつ頃気がつきましたか？



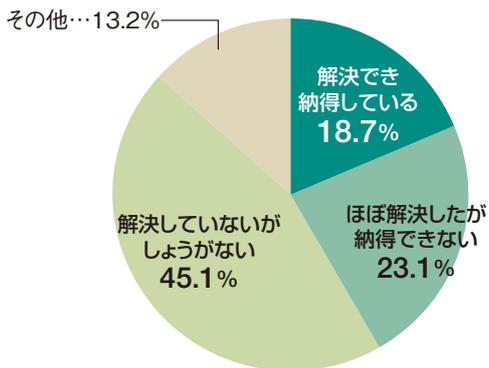
「その日のうち」に気付いたのが43.5%、「数日後」(23.9%)を合わせると約7割弱は早い段階で気付いているが、学校や施設と比較すると発見は遅くなっている。

## Q6 それに気がついたのは、なにがきっかけでしたか？



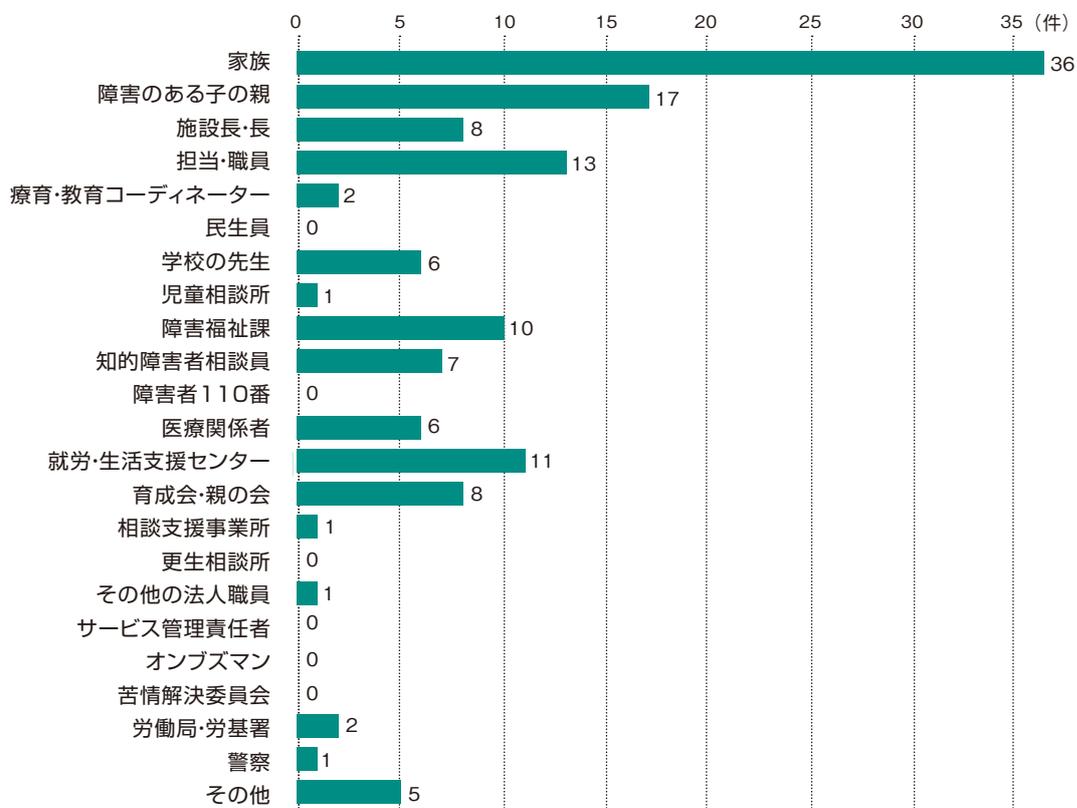
「本人の表情や体の様子、家族の様子が変だ」35.1%と、親族内で気付かれたケースが多い。「本人が訴えて相談してきたから」は25.8%となっており、学校・施設と比較して、自身から相談しているケースが多い。周囲(加害者、友達、教員・職員、他家族)からの報告で気付いたのは約1割程度となっており、これも学校・施設と比較すると1割程度少なくなっている。

## Q7 その虐待や不適切な対応は解決しましたか？ それに対して納得していますか？



「解決していないがしょうがない」が45.1%と未解決のままである。「ほぼ解決したが納得できない」23.1%と、あわせて約7割の方が不満を残したままとなっている。

## Q8 誰が相談にのり、頼りになりましたか？

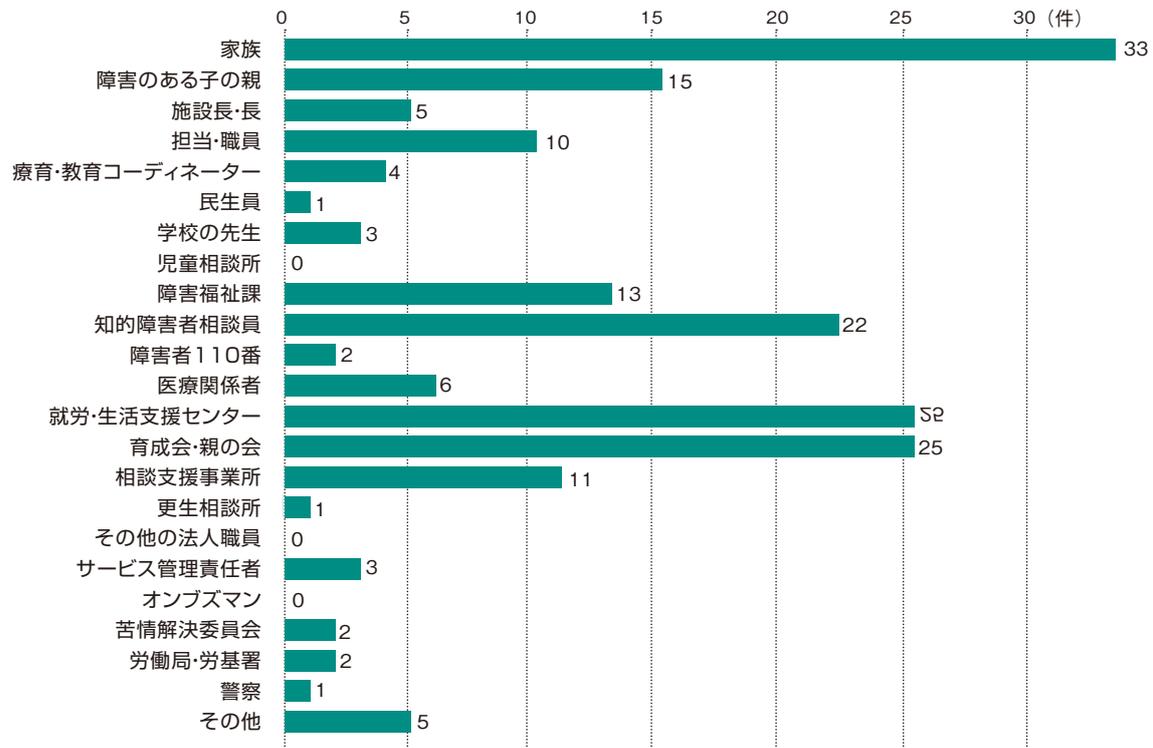


「家族」が36件と最も多い。

# 実際経験による虐待・不適切対応の実態

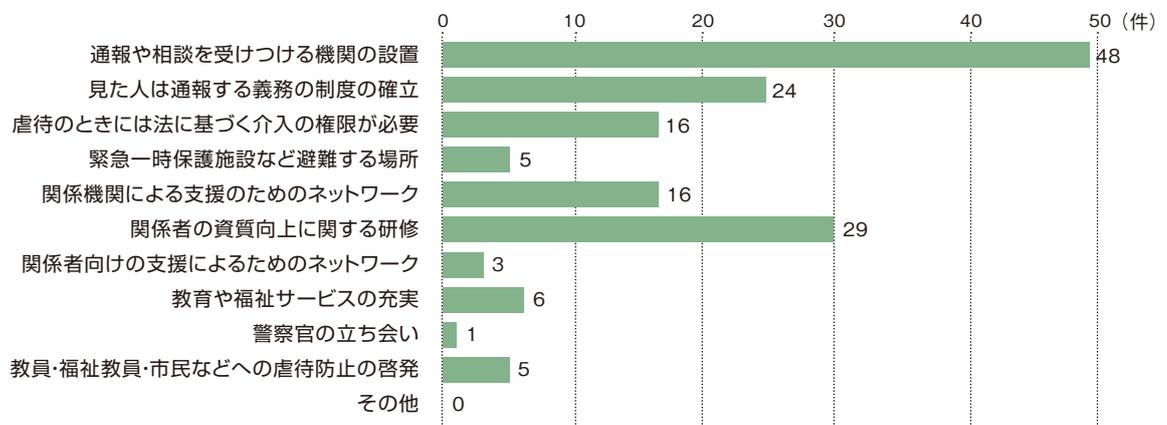
実際に受けた話について

## Q9 今後、相談したい、頼りにしたいと思うのは誰ですか？



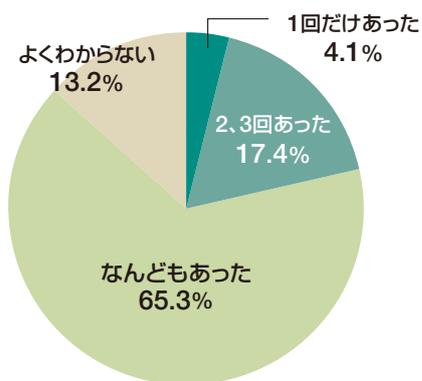
「家族」33件となっており、次いで「就労・生活支援センター」「育成会・親の会」25件となっている。

## Q10 今後、どのような体制・制度が必要だと思えますか？



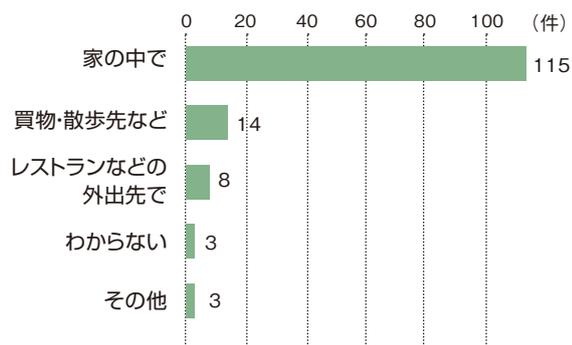
「通報や相談を受け付ける期間の設置」が48件と最も多く、「関係者の資質向上に関する研修」29件、「見た人は通報する義務の制度の確立」24件となった。

### Q1 それは1回だけですか？ 何度もありましたか？



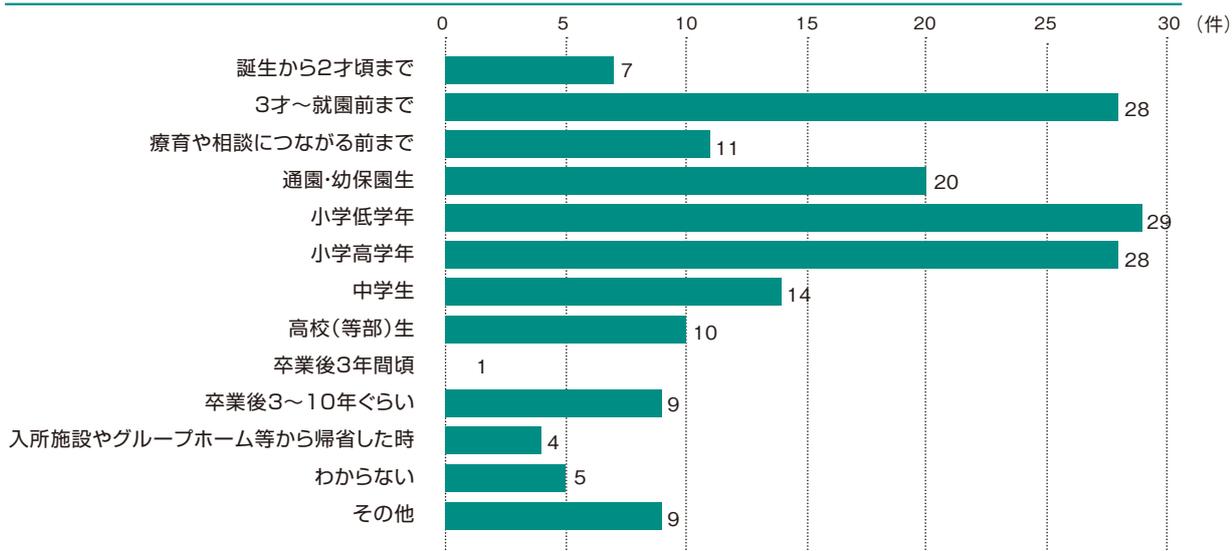
「何度もあった」65.3%、「2,3回あった」17.4%と、他場面と比較して、何度もあるケースが非常に多い。

### Q2 場所はどこですか？



「家の中で」が115件と圧倒的に多い。

### Q3 いつ頃ですか？

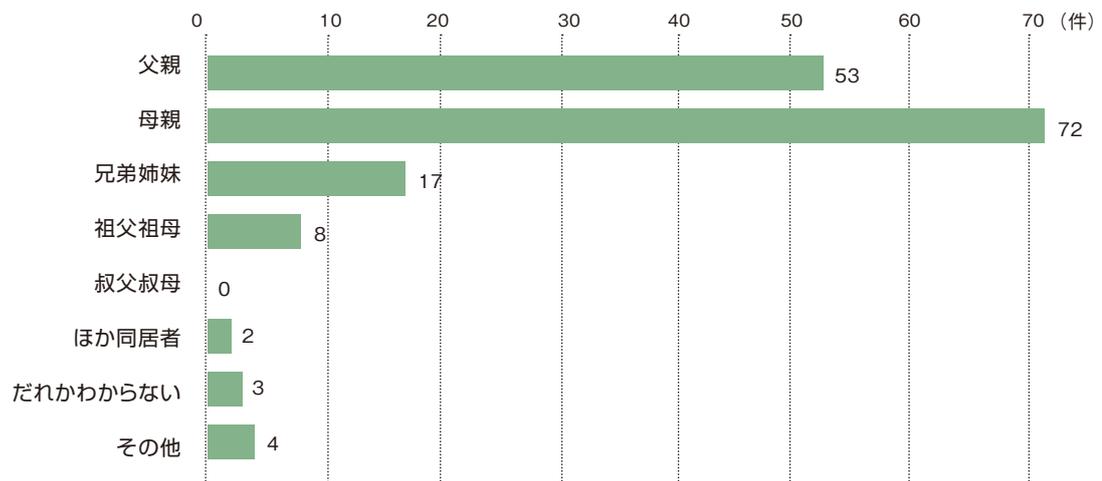


「小学校低学年」29件「小学校高学年」28件「3歳～就園前まで」28件と幼少のころにあるケースが多い。

# 実際経験による虐待・不適切対応の実態

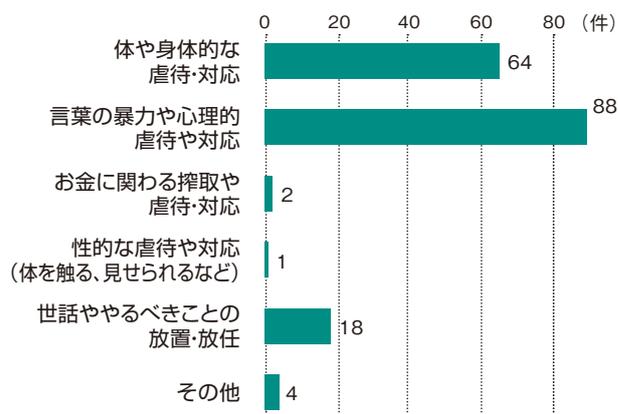
実際に受けた話について

## Q4 誰にされましたか？



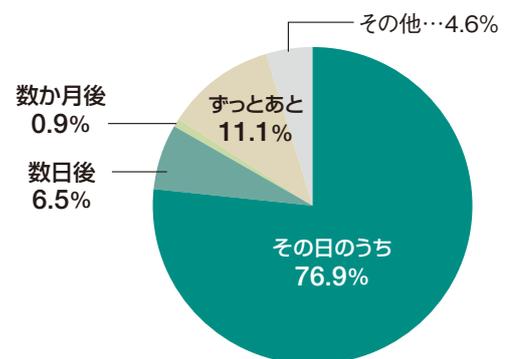
「母親」が72件と最も多く、次いで「父親」が53件となっている。

## Q5 どんなことをされましたか？



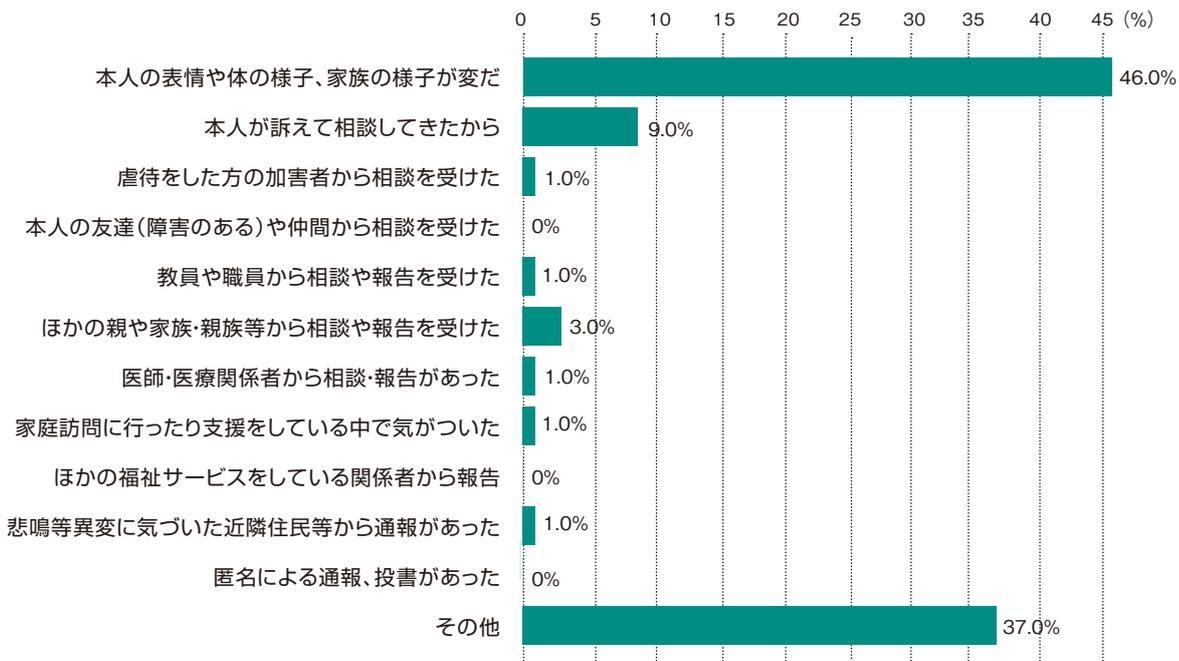
「言葉の暴力や心理的虐待・対応」が88件と最も多く、「体や身体的な虐待・対応」も64件と、他場面と比較して多くなっている。

## Q6 いつ頃気がつきましたか？



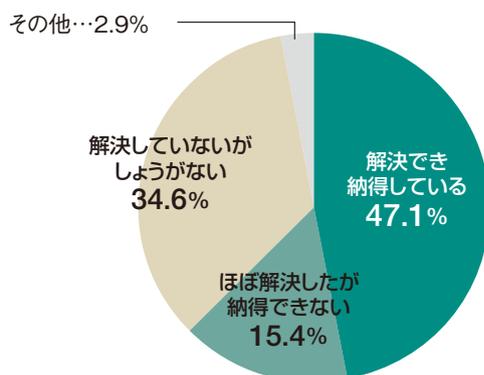
「その日のうち」に気付いたのが76.9%、「数日後」(6.5%)を合わせると約8割強は早い段階で気付いているが、学校や施設と比較すると、かなりその日のうちにの割合が高い。

## Q7 それに気がついたのは、なにがきっかけでしたか？



「本人の表情や体の様子、家族の様子が変だ」46.0%と、親族内で気付かれたケースが多い。「本人が訴えて相談してきたから」は9.0%となっており、学校・施設と比較して、自身から相談しているケースが多い。

## Q8 その虐待や不適切な対応は解決しましたか？ それに対して納得していますか？

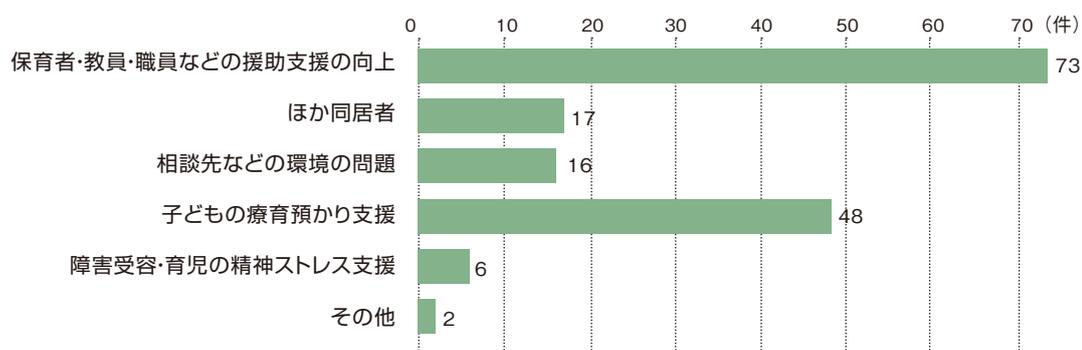


「解決でき納得している」が47.1%となっており、他場面とは違う傾向になっている。「解決していないがしょうがない」34.6%「ほぼ解決したが納得できない」15.4%と、あわせて約5割の方が不満を残したままとなっている。

# 実際経験による虐待・不適切対応の実態

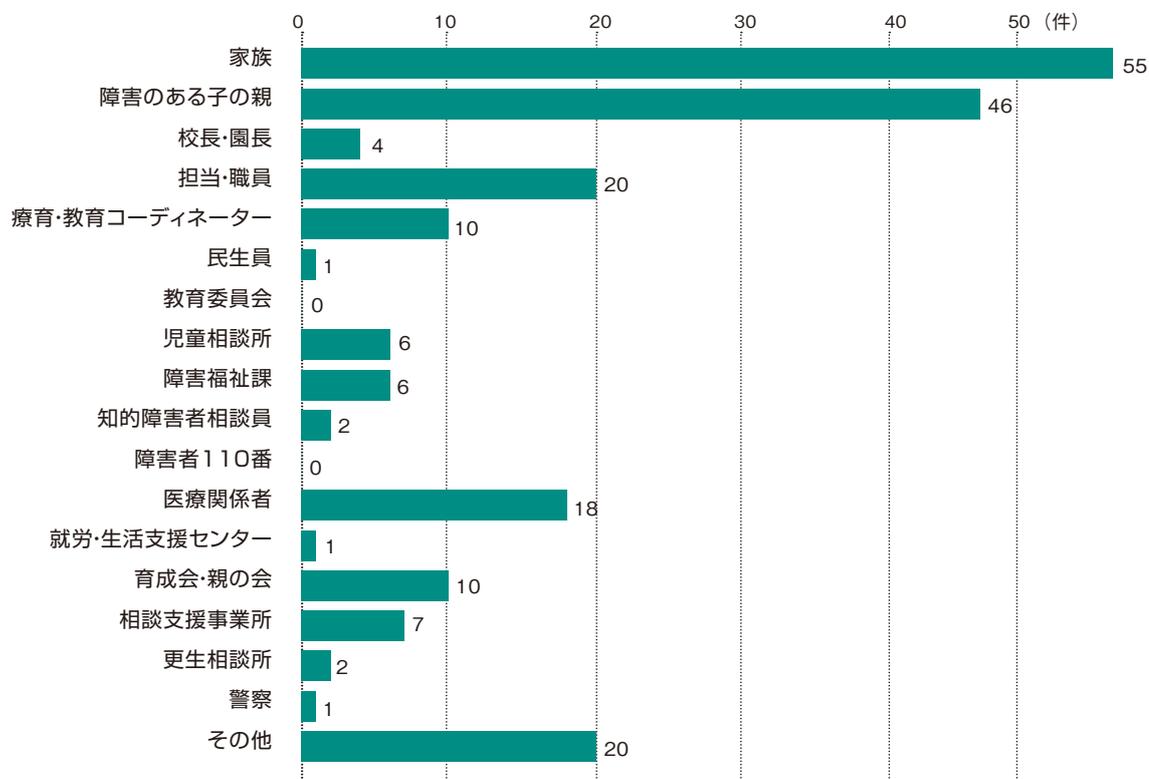
実際に受けた話について

## Q9 それを起こさないためには何が最も必要でしたか？



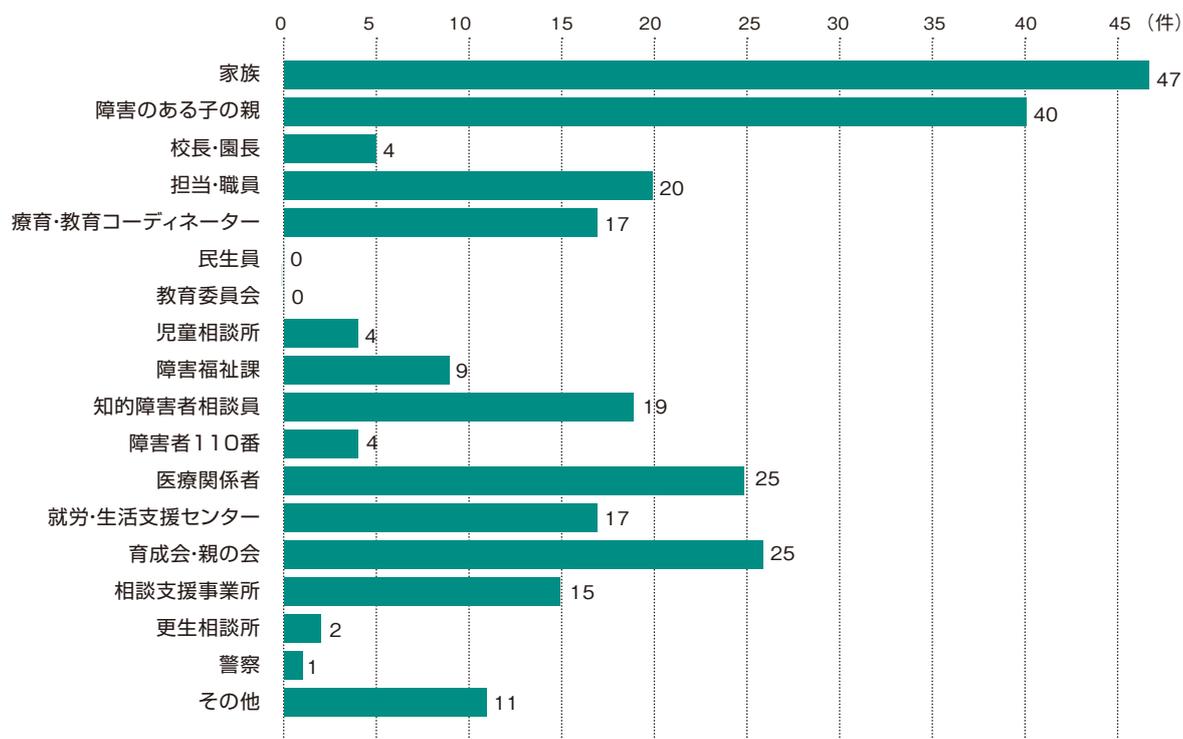
「障害受容・育児の精神ストレス支援」が73件と最も多く、次いで「家族への支援」48件となった。

## Q10 誰が相談にのり、頼りになりましたか？



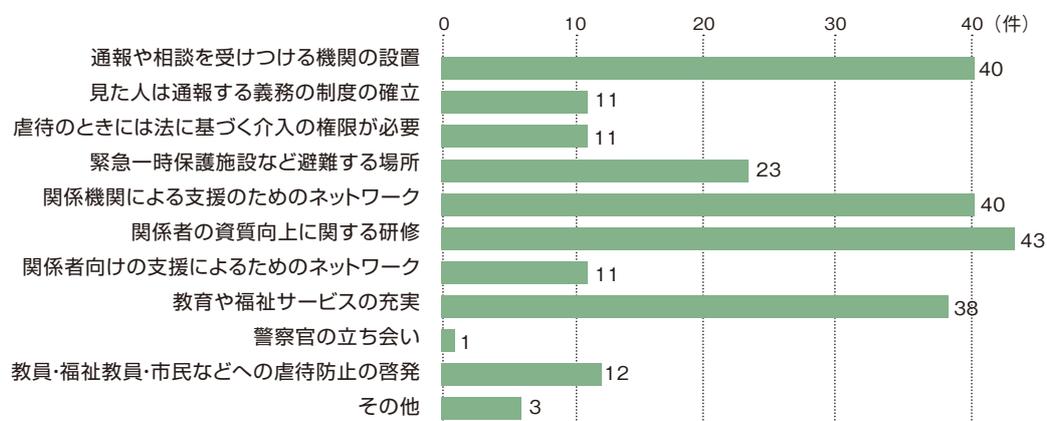
「家族」55件、次いで「障害のある子の親」46件となった。

## Q11 今後、相談したい、頼りにしたいと思うのは誰ですか？



「家族」47件となっており、次いで「障害のある子の親」40件となっている。

## Q12 今後、どのような体制・制度が必要だと思いますか？



「関係者の資質向上に関する研修」43件、「通報や相談を受け付ける期間の設置」40件「関係機関による支援のためのネットワーク」40件、「教育や福祉サービスの充実」38件となった。